

早稲田大学 政治経済学部 英語 講評

〔総合分析〕

出題形式	マーク・記述併用
試験時間	90分
特徴・その他	こんな問題なのに、何故難問なのだろうか？ それは合格後にも授業についていける思考力を持った学生を入学させるために、そういう問題形式になっているからである。一夜漬けで、「これしか出ない暗記物」みたいなうたい文句のものを覚えただけの受験生には厳しい難問である。

〔大問別講評〕

番号	出題内容	コメント	難易度
I	文の部分空所補充 単語補充選択 内容一致	「テレビと新聞」 2つの題材（ここではテレビと新聞）を対照させて展開する、よくあるパターンの英文。どちらに対する記述かに注意すること。	やや易
II	内容一致選択	「イギリス人の思考調査」 数詞・分数など、割合を示す語句にポイントを置く問題。文そのものの構造は難しくない。	やや易
III	文整序選択	「人間の先天的資質と後天的資質」 文の長さだけでパニックにならないこと。実は、指示語、副詞に注目するだけで、全てを読まなくても解答できる問題。センター試験第3問の形式と同じテクニックが使える。	やや難
IV	会話文 空欄整序問題 空欄補充英作文	整序問題は文法基本問題の範囲。 英作文は答えの可能性がたくさんあるので、自分が確実にできるパターンで勝負。この場合、意見が異なる2人の応答なので would rather A than B ～. など考えよう。	やや易

〔総合コメント〕

早稲田では最難関と言われがちな学部だが、問題そのものは拍子抜けする程単純である。従って、ボーダーラインは高いところに置かれると予想される。「熟語をいくつ覚える」とか、「長文は前から区切って読む」といったお手軽受験マニュアルから脱却している人には容易に解けるが、そうでない人には途中で分からなくなり、焦りから時間配分に失敗することになるだろう。

年間の授業でポイントとした内容が、あちこちで的中している。